

武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会

第8回 議事要旨

日時 平成26年4月15日(火)午後6時30分～

場所 かたらいの道市民スペース 会議室

1. 開会

一事務局職員の変更について紹介

2. 議事

(1) 第7回議事録の確認

一特に意見なし、各自確認

(2) 中間とりまとめに向けた意見交換

■委員長

・ページごとに構成されているので、それぞれご意見があればお願いしたい。

■委員

- ・最初の4行は、一回読んだだけではわからない文章であった。
- ・例えば、「これまで武蔵野市では、昭和46年の「コミュニティ構想」に基づき、行政からの制度的強制ではなく、各地域のコミュニティ協議会が、自主三原則を基本に地域も決定しないなど、他都市では例を見ない市民の活動がされて参りました」などはどうか。

■委員長

・行政からの制度的強制ではなくといった表現はわかりにくい。行政について触れるのではなく、コミュニティ構想に基づき、市民の自発的な活動で区域を定めずに対応してきた、という形で修正内容を検討したい。

■委員

・町内会を持たないということと、自主三原則の内容が入るとわかりやすい。

■委員長

・その点についても検討したい。

■委員

・この提言は、一般の人が読んでわかるということが前提ということか。だとすると、コミュニティ構想についても分からないのではないか。

■事務局

・今回は、市民の皆さんにお示しするという位置づけであるので、一般市民が見てわかりやすいものが求められることとなる。

■委員長

- ・コミュニティ構想については、説明するとかえってわかりにくくなる可能性もあり、こういうものがあつたという位置づけとしておきたい。
- ・要点としては町内会が組織されているという一般的な地域ではないことと、自主三原則

に基づいてコミュニティ協議会を中心に活動が展開されてきたということである。この点が明確になるように、整理したい。

- ・最後の3つのパラグラフは、調査結果に基づいた内容であるので比較的わかりやすいかなと思うがどうだろうか。

■委員

- ・最後のパラグラフであるが「行政も含めた地域に関わるすべての人々「と団体」と「と団体」を入れても良いのではないか。
- ・さまざまなアクターに呼びかけるということが明確になる。

■委員長

- ・3つ目、4つ目のパラグラフは市民の実感に近いと思う。最初の1段落目についてはうまく説明の内容を考えたい。

■事務局

- ・2段落の「16のコミュニティセンター」とあるが、コミュニティセンターは分館をいれると19館となる。

■委員長

- ・「16のコミュニティ協議会が、コミュニティセンターを運営し～」という形に書き直すこととしたい。

■事務局

- ・3段落目の「地域のイメージ」は「「地域」のイメージ」とすべきではないだろうか。

■委員長

- ・「地域のイメージ」は「「地域」のイメージ」の方が良い。一方で2段落目の「地域の実情に応じた」というのは、調査で使っている「地域」とは異なるので、カギ括弧は不要であろう。

■事務局

- ・4段落目において、「災害時の支援や情報の伝達手段」とあるが、「災害時の助け合い」とした方が良いのではないか。また、「緩やかなつながり」については、調査結果に即して「緩やかなつながりと参加しやすい環境づくり」としてはどうか。
- ・また、「市民が増加しているとも感じられ」とあるが、経年でデータは把握できていないため、「市民の声が多く」とした方が良いのではないか。

■委員長

- ・「災害時の助け合いや情報の伝達手段の基礎となる緩やかなつながりと参加しやすい環境づくりを地域コミュニティに対して求める市民の声が多く」となる。

■委員

- ・一番最後の参考は、とってつけたような気がするので、別添で関係するデータをかいつまんで掲載した方が良いのではないかと思うがどうか。
- ・例えば、課題を抱えている、とあるので、関連する調査結果を別添としてつけた方が良いのではないか。

■委員長

- ・本文に即するとすれば、「コミュニティセンターの認知度」「地域のイメージ」「コミュニティに対する期待」に関する調査結果を掲載すればよいのではないか。

- ・本文中では「別添1」などとすれば良いと思う。
- ・それでは2ページ目にうつりたい。まず、「2. 地域コミュニティとは」からいききたい。

■事務局

- ・「課題解決に当たっていく」とあるが、課題解決に当たることが、地域コミュニティの必須条件としてよいのか。

■委員長

- ・課題解決に関係ないものは、意味がないように思う。
- ・親睦機能はそれ事態は重要であるが、親睦そのものを目的にするのではなく、地域の課題解決のために取り組んでいるということは重要だろうと考えている。

■委員

- ・課題解決しなければいけないというわけではなく、課題解決に向かっていくということを書いているので、問題ないのではないかと。

■委員長

- ・いざというときに助け合える基盤があるということが重要で、それ自体が麗しくて重要となると少し論点が違ってくるように感じる。

■委員

- ・課題解決と自覚はなくても、実施していることが地域に役立っていることはたくさんあるように思う。そういうことも含めてというらえ方で良いのではないかと。

■委員長

- ・コミュニティというと仲良くしている状態ととらえるようになるが、それ自体を目的とするとやや論点がずれるので、課題解決に向かっているということで押さえておくことにしたい。
- ・では、3（1）にうつりたい。最初のパラグラフに町会・自治会のことが書いているので、ここに対応するように、1ページ目を直すようにしたい。

■委員

- ・自主三原則の内容についてここに書き込んではどうだろうか。

■事務局

- ・用語説明として欄外に説明する方法もある。

■委員長

- ・欄外として整理されている方が良いだろう。1ページ目については欄外の説明として自主三原則の内容を記載し、あらためて2ページ目の中で触れることで、より内容が理解できるようにしてみたい。

■事務局

- ・3段落目の内容が、武蔵野市の良い点であると思うので、その点がより明らかになるような表現としてはどうか。
- ・また、最後の段落で、「企業商店街」とあるが、厳密には「企業・商店会」であり、更に「NPO」を追加してはどうか。

■委員長

- ・最後の段落の「企業商店街」を、「企業・NPO・商店会」とするか。あるいは、NPOは「学校・PTA」と並べるのが妥当か。

■委員

- ・NPOは、「様々な活動団体」に含まれているのではないか。

■委員長

- ・「様々な活動団体（課題ごとの活動団体）やNPOなどが」とする。
- ・3ページの（2）課題について整理したい。

■委員

- ・図の下部にある文章について、日本語がおかしく修正が必要である。

■委員長

- ・「コミュニティ協議会は地域コミュニティづくりの中心として活動しているが、多様な目的別の～利用はしても、～活動になっていない」と整理されるように思う。
- ・場合によっては、「～活動している。」で文章を区切った方が良いかもしれない。

■委員

- ・2つの図であるが、点線と実線の違いをわかりやすくするために、両者を並べて見られるようなレイアウトとしてはどうか。

■委員

- ・見開きのページに入る方が良いのではないか。

■事務局

- ・レイアウトの中で工夫してみたいと思う。

■委員

- ・一段落目の3行目であるが、「とられてしまったために」は「とられてしまっていたために」ではないか。

■委員

- ・下から6行目で、いままで活動団体がコミュニティ協議会という場を共有してこなかった背景は、自主三原則が行政の関与を認めないと理解されただけではないと思う。
- ・行政の紹介もなく、地域の中でコミセンが位置づけられていなかったため、つながりどころがわからなかったということではないか。

■事務局

- ・内部としても、行政の関与を認めないということだけではなく、コミュニティ協議会に対する投げかけを行った場合でも、自主参加の中で対応いただけないケースがあった結果、別組織ができてしまったという経緯でもあったのではないか。
- ・コミュニティ協議会側が受けられなかった、という実態もあったのではないだろうか。

■委員

- ・コミュニティ協議会については、地域のことを受けていこうというところが今まで薄かったのだろうか。

■委員長

- ・自主三原則は、行政の課題に対してすべて対応することはできないし必要でもないという点で理解しやすく、その考えに立って市民側も断りやすかった現状もあった。
- ・一方で行政は課題の解決に取り組む必要があるので、別立てで対応してしまったということだろう。

■委員

- ・自主三原則を勝手に解釈して、結果的にはサークル的な動きになっていたということだろう。

■委員

- ・主語がわかりにくいのが問題なのだろうと思う。

■委員長

- ・1段落目の「とられてしまった」は、行政と市民の両方である。
- ・3段落目の「理解された」については、市民と行政で意味が違うのを一緒に書いてしまったので、わかりにくくなっている。
- ・しかし、それを具体的に書き下すとかえってわかりにくくなるため、自主三原則という言葉についてはあえて触れず、「～狙いであったはずですが、市民、行政共に十分に理解できておらず～」としてはどうか。

■事務局

- ・1段落目の2行目の文章に関しても、自主三原則について本来的には行政が関与しないということは間違っていないように思う。
- ・そのため、自主三原則のマイナス面の書き方は難しく、関与しないという意味に取られたということなのか、単に関与しなかった結果こうなったという表現が適切なのか。

■委員

- ・自主三原則については両者が理解できていなかったという表現としてはどうか。

■委員

- ・今後明らかにしていきたいことは、コミュニティ協議会について皆が理解して参加しやすいものにしていきたいということと、行政がまったく関与しないということではないということを明確にすること、の2点である。
- ・この点を踏まえると、自主三原則が単に両者が関わらないと理解してしまったことや、コミュニティ構想の狙いを十分に理解していなかったことなど、という表現としてはどうか。

■委員

- ・いくつかの活動団体が設立された背景は、行政がコミュニティ協議会に頼まなかったということなのか。

■委員

- ・それよりは、行政の縦割り組織によるものではないだろうか。

■事務局

- ・コミュニティ構想や、コミュニティ協議会的なものが地域において様々な役割を担うことを想定していたが、縦割り行政であることも含めたさまざまな事情の中で、別の組織が設立したという結果になっている。

■委員

- ・2008年に埼玉でコミュニティの話をしたときに、今後の課題として4つ整理した。
- ・その中の一つとして、地域からは行政の縦割りの状況が垣間見えるため、分野毎に連携を図ることが重要という点を掲げた。

■事務局

- ・縦割りという表現は使われやすい面もあるが、一方でそれぞれの分野について専門的な

組織が必要であることは事実である。

- ・ただし、一方で地域においては全体として展開しなければならないという中で、具体的にどのような体制を取るべきかという問題だろうと思う。

■委員

- ・専門性は必要であろうと思う。
- ・一方で、同じようなことを複数の部署でやっており連携が取れていないと感じる面もある。

■委員

- ・コミセンが地域の先端となり情報が集約されてくれば、本来は非常にやりやすい。

■委員

- ・行政がすべて横につながりながら地域に下りてくることは現実的ではない。
- ・行政としては専門的に取り組んでいるが、地域全体で把握する役割が必要であり、その点をコミセンに伝えていくことが重要ではないか。

■委員長

- ・1段落目について、広報をしなかったということが問題である。
- ・本来の自主三原則の意味をアピールしなかったがために、双方に共有されないままであり、結果自主三原則が市民に任せっきりという理解をされてしまったという趣旨であろう。表現は考えるが、行政と市民の双方に課題があるという問題ではないと思う。
- ・3段落目の自主三原則は、行政、市民双方の問題があり非常に難しい。「自主三原則を含めた行政や市民の役割の在り方が十分に理解されなかったので」という内容で整理するようにしたい。

■委員

- ・1段落目の1行目について、「内容に若干わかりにくい面」とあるが、先達がつくったものについて適切な表現ではないのではないか。

■委員長

- ・軟らかい表現に変更する方向で調整したい。

■委員

- ・図の中の「？」マークは、説明があった方が良さだろうと思う。

■委員長

- ・実線と破線ということで対比させれば、「？」は不要であろうと思う。

■事務局

- ・2段落目の3行目について、コミュニティ構想が理解されていないから参加者の維持が難しいと読めるが、参加者の維持が難しい主要因は、コミュニティ構想への無理解だけではないのではないか。

■委員長

- ・コミュニティ協議会を中心の考え方として打ち出してきたにもかかわらず、その点についての理解を得ようとしてこなかったが故に、コミュニティ協議会への理解が進まず、結果的に参加の足かせにもなっているということを指摘しているに過ぎない。ここは、文脈的に、一般的な参加の足かせの理由を列挙する必要がある場所ではない。
- ・「～十分に理解されていないために、市民一般の参加が得られにくい現状があります」

とすることでよいか。

- ・ 4 ページの (3) にうつりたい。

■委員

- ・ 図の下の説明は体言止めになっている。

■委員長

- ・ 説明文が誤っているので差し替えが必要である。「～そこに地域の様々な人々も、多様な目的別の活動団体も、行政も、「地域を考える立場」から参加し、地域コミュニティ全体として活動していく」としてはどうか。

■委員

- ・ 図については、細かいところを読んでではじめてわかるものでは意味がなく、説明文を細かく記載する必要はないのではないか。

■委員長

- ・ いま、図の中に入っている文章は、キャッチフレーズのようなものとした方が良い。例えば、「コミュニティ協議会と他の活動団体がつながっていない」「コミュニティ協議会も他の団体も協議の場に結集する」などとして、対比できる形としてはどうか。

■委員

- ・ 現状と将来像についてすぐにわかるようになるとよい。

■委員

- ・ 地域課題の投げかけは行政だけではなく市民から行われる場合もある。そういう観点に立てば、「課題の共有」ということが非常に重要であり、その内容を盛り込むようにしたい。

■委員

- ・ 図に記載するキャッチフレーズに、「結集して問題を共有していく」などの文章を盛り込んでどうか。

■委員長

- ・ 5 ページ以降が具体的な進め方に関する内容である。

■事務局

- ・ 「3. コミュニティ構想の現状」と対比させると、4 ページの「(3)」は「4. 」とする方が適切であるので修正したい。

■委員

- ・ 「②1) 「地域フォーラム (仮称)」の運営と開催」であるが、開催を要請できるのは行政や活動諸団体だけなのか。個人も入っているとすると、現実的には、コミュニティ協議会に個人が要請していくということになるだろうか。

■事務局

- ・ 4 ページの「対等な立場」という表現について、例えば法に基づいて執行する必要があるものなど、必ずしも行政と地域の対等な立場が成り立たない場合もあるのではないか。

■委員長

- ・ 「②1) 「地域フォーラム (仮称)」の運営と開催」では、コミュニティ協議会と活動団体が要請できるということは記載されている。それ以外に、一般の市民はコミュニティ協議会に要請して開催できる、ということをも明記するかどうかである。ただし、コミ

ユニティ協議会の開催権にその内容が含めているとの整理で良いのではないかと。

- ・一方で事務局から問題提起については行政の役割と関係するため、後ほど議論したい。

■事務局

- ・5ページの最終行について、「災害時支え合いステーション」が、地域の拠点であるように読めるが、「災害時支え合いステーション」は地域の拠点には該当しない。

■委員長

- ・該当する文章は、「～位置づけられている「災害時支え合いステーション」の役割としても～」としてはどうか。
- ・5ページの下から3行目、「目的別コミュニティ」の表現が残っており修正が必要である。

■委員

- ・6ページの「4. ②「地域フォーラム（仮称）」での立場」では、「対等の立場」はカギ括弧付きの表現となっている。

■委員長

- ・法に基づく執行のような内容について触れているのではなく、地域と共に課題を解決する立場で対応することが望ましいという観点から、カギ括弧付きの表現としている。

■委員

- ・基本的な姿勢として対等な立場として関わるというのが今回の議論であったと思う。そのため、「基本的な姿勢」や「基本的な立場」という表現を加えてはどうか。
- ・「4. ②「地域フォーラム（仮称）」での立場」のタイトルに「基本的な立場」という表現を盛り込んでどうか。

■委員長

- ・タイトルを今の提案どおりに修正した上で、「対等な立場」という表現は、カギ括弧付きでは残しておきたい。

■事務局

- ・「①「地域フォーラム（仮称）」への参加」の2段落目について、行政が要請した場合も必ず地域フォーラムは開催されるということであろうか。
- ・運営は自主三原則にのっとりコミュニティ協議会がその方法を検討することで良いと思うが、開催の可否に関する権限までコミュニティ協議会にあるとするとコミュニティ協議会の位置づけが強くなりすぎる懸念もある。

■委員長

- ・「決定」という表現を利用するのではなく、「運営については、コミュニティ協議会がコーディネートにあたっていきます」という表現の方が適切であるように思える。

■委員

- ・「「地域フォーラム（仮称）」の開催を行政から要請した場合でも」とした方が良いのではないかと。

■委員長

- ・それでは、「地域フォーラム（仮称）」の開催を、行政が要請した場合でも、その運営については、コミュニティ協議会で進めていきます」とする。

■委員

- ・「また、コミュニティ協議会から行政に対して～」の文章について、求められるから参加するといった位置づけではなく、「行政は積極的に参加していきます」という表現の方がよいのではないか。

■委員

- ・そもそもとして、「①「地域フォーラム（仮称）」への参加」の2段落目は、1段落目に端的に整理されているため、不要ではないか。

■委員長

- ・今のご指摘どおりであり、加えて行政の役割を整理している箇所でも記載する内容でもないため、2段落目はすべて削除する。

■委員

- ・同じく1段落目の地域の課題を「指摘する」という表現は適切か。

■委員長

- ・問題提起するという言葉の方が適切であろう。

■事務局

- ・行政側としては、課題の提起だけでよいのかという不安もある。課題の提起だけにとどめると、行政としてなにもしないのか、という批判につながる恐れもある。

■委員長

- ・地域フォーラムは、問題を互いに提起して共有する場として位置づけており、課題解決の場ではない。
- ・あくまでも、コミュニティ協議会も含めて地域全体で課題を共有するというのが今回の提案の主眼である。さらにその場で各種団体の力を活用して地域課題を解決していくことまで踏み込むと、行政がさまざまな団体を結集させて課題解決に取り組むことと同じで、コミュニティ構想が目指している方向性とも異なってしまう。
- ・行政の立場として今の事務局の不安が生じることは理解できるが、ここについては、指摘する場として位置づけた方が妥当であると思う。

■委員

- ・「協議」という言葉が、なにかしらの「結果」があることを想起させるのではないか。

■委員長

- ・「地域フォーラム」という言葉を最初に利用し、それが共有の場と同義であることを説明する方が良いか。

■委員

- ・地域コミュニティについて、課題解決にあたっていくことのできる社会的なまとまりと定義しているため、その点との整合性を図る必要はないか。

■委員

- ・課題解決の端緒につくまでの場としての地域フォーラムという整理ではないか。

■事務局

- ・今までの議論を踏まえて、地域フォーラムの機能について、もう少し具体的に書き下した方が良いように感じる。

■委員

- ・課題解決を行ってはいけない、ということではなく、情報共有を行うことが最低限あり、

その結果として課題解決に向かっていくことは問題ないのではないか。

■委員

- ・協議の場ということを考えれば、ある程度結論が得られることが必要ではないかと思う。

■委員長

- ・5ページの冒頭で、「協議の場＝地域フォーラム」が具体的に何を目指しているかについて明確にする。その上で、運営や参加者や範囲などについて触れることが適切だろう。
- ・「4. ①「地域フォーラム（仮称）」への参加」について、「指摘する」などの表現については修正を検討したい。
- ・その他、全体をとおしてご意見を頂戴したい。

■委員

- ・専門用語が多いように感じる。コミュニティ構想や自主三原則などの言葉について、一般の市民にわかりやすいように注釈などをぜひお願いしたい。

■委員

- ・当検討委員会では、最終的に取り組んでいく具体的な内容まで踏み込むのか。

■委員長

- ・委員会として、基本的な内容を提案することがまず必要である。また、その現実性や実現性についても委員会で判断することとなる。従って、市民との意見交換の結果などを踏まえて、委員会である程度具体的な取り組み内容まで記載可能と判断すればその内容まで踏み込むし、それが難しければ検討の方向性を示すにとどまる。

■委員

- ・この内容が市長への答申であるとする、「5. (3) 地域を中心に活動する意識の共有」についてももう少し強い表現である方が良い。

■委員長

- ・意識の共有という表現ではなく、「本来のコミュニティの在り方を実現できるようにする」、といった強い表現にしたい。
- ・本日の討議結果を受けて、事務局と修正し、各委員に確認をいただいた上で最終案として取りまとめ、市民との対話に入りたいと思う。

(3) 今後のスケジュールについて

■委員

- ・市民との意見交換会では、できれば対面式ではなくラウンド型でお願いしたい。

3. その他

■事務局

- ・第9回は7月22日に変更する。

4. 閉会

以上